

# ゆたか看護部通信 No2

新型コロナの影響で延期になっていた『敬老会』を、  
10月15日（金）に行いましたのでその様子をご紹介します。

入院している高齢者の余暇活動を支援することで生活上のストレスを軽減し、生活機能の低下を予防して治療を円滑に受けることができることを目的として、入院患者さんにとって帰宅願望が強くなる夕方ごろ、デイルームで余暇時間を楽しめるように実施しています。

今回は、看護師2名が浴衣を着て、認知症ケアサポート委員全員で炭坑節を披露しました。



毎日変化のない生活を強いられている患者さんが、音楽を聴きながら手拍子をしたり、共に踊ったりして、楽しい時間を過ごすことができました。患者さんの笑顔が最高でした。

(患者さん及びご家族の許可を頂き写真を掲載しています)

栄養科の協力でデザートのパレートをさせて頂きました。

普段食事がすすまない患者さんが嬉しそうに召し上がっている姿を見て、認知症サポート委員全員、イベントができてよかったですと口をそろえました。



本来、急性期の身体的治療を目的とした病院では、治療的な関わりが主体となるため、認知症高齢者の生活を見落としがちになります。今回の敬老会は認知症高齢者のその人らしさを引き出すきっかけ作りになると思い、企画しました。その人らしさを引き出し、ケアに活かすことは、認知症高齢者の本来あるべき姿を取り戻し、生き生きとした生活を支えることになります。これからも、認知症高齢者の尊厳と生活を支える看護を提供していきたいと思えます。

認知症ケアサポート委員会

## 【編集後記】

患者さんはもちろんですが、職員の笑顔も素敵です。

当院には、老人看護専門看護師と認知症看護認定看護師がいます。

高齢者看護について、スタッフから相談を受けて助言をしたり、教育をしたり、日々大活躍です。

多職種からなる認知症ケアサポート委員会は、7月には七夕まつりを行ってくれました。次は何か？楽しみです！